

科目名	担当教員	授業方法	授業形態	履修者数	履修学年
経営戦略論	高井 文子先生	講義	遠隔：リアルタイム・オンデマンド併用	350名	1～4年 (主に1年)

【授業内容】

経営戦略論とは、企業が実現したいと考える目標と、それを実現させるために何をどのようにするのかという道筋を示す、基本的な構想や指針のことです。この授業では、経営学の重要な科目の一つである経営戦略論の基本的な内容を、実際の事例を交えながらの講義を通じて、理解することを目的としています。

この科目は、経営学部を選択必修科目ですので、例年は受講者の8割程度は経営学部の1年生です。ほぼ全ての1年生が受講しますので、受講者は例年350人から400人程度となります。

【授業の実施方法】

例年は、経営学部の最も大きい教室で講義を行っていましたが、今年度は、ハイブリッド（隔週で登校、Zoom）にて実施という方針になりました。ただ、近接する曜限の必修科目の実施形態（リアルタイム Zoom のみ）に学生の利便性等を鑑みて合わせることとなり、講義3回目以降は、ハイブリッドからリアルタイム Zoom（録画して3日間はオンデマンド動画も配信*）での実施へと途中変更となりました。授業中に投票機能を用いて質問を行うことで、出来るだけリアルタイムでの参加を促しました。

*リアルタイム Zoom で出られない学生の利益を考慮するという学部の方針により、この授業では授業は録画して3日間視聴できるというルールにいたしました。（水曜日に授業、金曜日までの視聴。金曜日までに、授業に関連する課題を授業支援システムに毎回設定）。

【授業準備にあたってのポイント・工夫した点】

基本的には、対面の時のみと授業の方針は変わらず、なるべく受講者と対話し参加してもらい、その場で自分で考えて理解を深めてもらう、というスタンスで行いました。

●Zoom の投票機能を利用した工夫

例年の授業はかなり大講義となりますが、教室を歩き回って問いかけたり、質問を拾い上げたり、挙手してもらったり、出来るだけそのときの学生の知識量や興味関心に合わせるように心がけていました。それが不可能なリアルタイム Zoom では、投票機能を利用して、事前に5～7個くらいの問題を仕込んでおきました。授業の冒頭は時事的な雑談（受講場所・使用端末、大学への登校頻度、アルバイトの頻度、ワクチン接種券が来たか、など）、授業中盤では、授業内容に関連する質問（持っている携帯端末のメーカーや iPhone の製造場所が分かる記号のアンケート、家電をどこで購入したか など）、授業後半では、本日の内容についての

ミニテストなどを行いました。こうした「ネタ」きっかけにして質問や意見をチャットで呼びかけると、単に「何か質問ありますか？」というよりも、Zoomであっても、授業が盛り上がる様子が手に取るように感じられました。

オンデマンドでの視聴では、この Zoom での投票には参加出来ないため、リアルタイムでの参加意欲に繋げることが出来たと思います。実際に授業アンケートでは、「他の横国生の日常が垣間見れて良かった」「飽きずに授業に参加できた」「投票があるので、他の学生と一緒に参加している気になれた」という意見が多数寄せられました。

●動画利用の工夫

例年の授業でも利用することがありましたが、動画（業務内容紹介や経営者のインタビューの動画など。多くの場合 5 分前後。長くて 10 分程度）を通常の授業よりも多めに利用し、アルバイトや様々な経験が不足している可能性のある状況を補完し、学生が飽きないような構成にするように意識しました。大教室のプロジェクターでは見づらい環境になることもあったようですが、個人の端末での視聴ではそういったこともなく、動画の利用は非常に好評でした（百聞は一見に如かず、のような効果を引き出した部分も多かったと思います）。

●授業内課題の工夫

通常の授業では、スキャネットシート（マークシート）を利用して、授業内の課題を出していましたが、毎回ではなく、受講者数や処理などを考えるとせいぜい 5~6 回程度でした。それがオンライン講義（端末を利用できる環境が当たり前）ということになりましたので、毎回、必ず授業内容に即した課題を出すこととしました。その内容を見ると、例年以上に頑張って授業内容に向き合ってくれたことが分かり、中間テスト、期末テストの成績を見ても、例年と比べて勝るとも劣らない理解度だったのではないかと感じます。

●オンデマンドの併用について

当初は、リアルタイム Zoom の受講者が多かったですが、想定されたことではあるものの、徐々に減っていきました。オンデマンド設置の目的から、リアルタイム Zoom での出席をとるようなことは行いませんでしたが、授業内のアンケートなどを踏まえると、「オンデマンドのみ」という学生は意外とそれほど多くはなく（オンデマンドのみは、おそらく 1 割程度）、他の授業の課題や宿題の進捗、家族の在宅勤務の状況などによって、併用している学生が多かったのではないかという印象があります。またリアルタイム Zoom で参加していたが、一部見直したい部分がある場合はオンデマンドを視聴した、という声も多く聞かれました。これについては、授業後に授業内容を繰り返すような質問を防ぐことになったでしょうし、学生の学びにとってプラスになる効果があったのではないかと思います。

【従来の対面授業との違い～学習効果の観点から】

もともとこの講義は、いちばんの大教室でのきわめて大人数での講義でした。なお、学生の多くは経営学部の 1 年生でしたが、学生の理解度や授業へのコミットメントに

は幅がありました。

基礎的な内容の質問を対面で質問をするのは正直ハードルが高いのかなと思いますが、非対面では質問が通常より多くでましたし、分からなかったところはオンデマンドを見直したという意見も多く、基礎的な内容を学ぶ科目としてはメリットが大きかったと思います。また、後方に補助的なモニターがありますが、教室前方のプロジェクターが見づらいという問題も回避できました。また、混雑する教室で講義を行ったときには、空調の効きが悪い、大人数の友達同士で場所を陣取ったりしている、といったクレームが出ることもありましたので、受講環境面での利点もあったと思います。

落ち着いて受講できる環境の保持と、授業への参加を継続する強い意志があるのであれば、学習効果や満足度は、リモートが勝るとも劣らなかったのではないかと思います。逆に、学校に来て、友達と一緒に学ぶことでモチベーションを維持するタイプの学生には大変厳しかったのではないのでしょうか。私の授業の受講生では、前者の学生（前者としても対応できた学生）が多かったように感じます。

【補足：ハイブリッド講義について】

上述の通り、経営学部の方針として、当初はハイブリッド（隔週で登校、Zoom）にて講義を実施することになっていましたが、近接する曜限の必修科目の実施形態に学生の利便性等を鑑みて合わせることとなり、講義3回目以降は、リアルタイム Zoom での実施となりました。

ハイブリッドは、教室に来ている学生、Zoomの向こうにいる学生、両方に気を配らなければならない（どっちつかずになる）状況でしたので、予見していた通りですが、非常に難しかったです。例年では教室を歩いて学生と対話するのですが、アクリル板のある教卓から動くことが出来ないため、Zoomの向こうの学生とのコミュニケーションを中心に、教室の学生にも呼びかけて行うという形態をとりましたが、大教室で後ろの方に座っている学生はせっかく対面なのに置いてきぼりになってしまったことは反省点です（前に座るように呼びかけても、実際にはそうはなりませんよね）。今年は上記の理由で2回ほどしかハイブリッドでは実施しなかったため、ハイブリッド形式でのノウハウが貯まることなく Zoom のみに移行し、個人的には課題が残るところになりました。